

■ 第 1 回専門委員会②における主な意見

- 審議事項：現計画期間中の主な取組み、現状と課題
- 開催日：令和 6 年 5 月 13 日（月）※③と合同開催
- 出席委員：会長・増田健太郎（九州大学名誉教授）、副会長・西田淳一（福岡市立中学校校長会代表）、（敬称略）大寶孝子（筥松校区子ども会育成連合会会長）、古賀誠子（福岡県私学協会福岡支部監事）、佐藤裕保（福岡県警察本部生活安全部少年課少年健全育成室長兼児童虐待対策室長）、増田亜希子（福岡市 PTA 協議会 副会長）

【主な意見（要約）】

[施策 7] 青少年の健全育成と自己形成支援

- 大麻などの有害性を正しく認識できるよう、メッセージとして伝えていく必要がある。
- 薬物だけでなく、SNS や性教育、いじめなどにおいても予防啓発教育が重要。
- 警固界隈に集まる若者たちがすぐに公的機関へ相談に行くかという点、そうではない。そのような若者をどのようにケアして犯罪に巻き込まれないようにしていくかが今後の課題。

[施策 8] 若者等の相談支援と居場所の充実

- 他都市では、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを常勤で配置するところもある。不登校児童生徒数が増加する中、福岡市も人数や時間数を増やすなど検討してはどうか。

[施策 9] 障がい児の支援（学童期以降）

- 包摂的に子どもを支援していくため、子どもを真ん中に置き、福祉と学校教育がバランスよく、切れ目のない支援になるよう繋ぐ機能が必要である。
- 幼保小中高までのそれぞれの施設の連携や、福祉と教育との連携により、切れ目のないサービスを提供する体制づくりが必要である。

■ 第 1 回専門委員会③における主な意見

- 審議事項：現計画期間中の主な取組み、現状と課題
- 開 催 日：令和 6 年 5 月 13 日（月）※②と合同開催
- 出席委員：会長・奥村賢一（福岡県立大学大学院准教授）、副会長・山下洋（九州大学病院特任准教授）、
（敬称略） 酒瀬川秀穂（和白青松園園長）、
佐藤裕保（福岡県警察本部生活安全部少年課少年健全育成室長兼児童虐待対策室長）、
藤田英隆（社会福祉法人福岡市社会福祉協議会常務理事）、
本山美恵（福岡保護観察所首席保護観察官）

【主な意見（要約）】

[施策 10] 子ども家庭支援体制の充実

- タブレット相談は、悩みを抱える子どもと最初につながるツールになりうることを踏まえると、つないだ先の関係機関が適切に対応することに加え、フォロー体制の確保が課題と考える。
- 支援ニーズがあっても、自分から支援の窓口に行って支援を求めることが難しい場合もあるため、アウトリーチ型の支援を増やしていくことが不可欠。

[施策 11] 児童虐待防止対策と在宅支援の強化

- 子どもや若者から相談を受ける相談員等が子どもの立場で相談に応じられるよう研修等の充実が必要。

[施策 13] 子どもの貧困対策の推進

- 貧困の状況にない家庭の子ども食堂の利用が増えている。貧困の状況にある家庭の子どもへ支援を届けるためには、工夫が必要ではないか。

[施策 15] 子どもの権利擁護の推進

- 日本語指導が必要な児童生徒への指導・支援に加え、進路のサポートも重要。